

鳥取神青通信

第10号

発行元 鳥取県神道青年会
編集 若 草 会

中国地区理事

就任挨拶

中国五県青年神職協議会

会長 中嶋 俊史



平成十五年度から二年間、神道青年全国協議会中国地区理事の役職を務めることになりました。地区理事がすなわち中国五県の会長ということになるのが慣例のようですが、お引き受けするまでは、随分と逡巡しました。それというのも県の組織においてささしたる貢献をしていないのに、このような大きな場に出ていっても大丈夫なのだろうかという不安が常にあったからです。しかし、これが最初で最後のことと腹を決

めてやってみることにしました。

これまで先輩諸賢が築き上げてこられた事業や活動に心を留め、その継承発展に力を尽くして参りたいと思っています。そのためには是非とも会員皆様方のご協力が不可欠です。大きなことができる器量はありませんが、少しずつ少しずつ歩を進めていけたらと考えています。

今の社会情勢を眺めますと、不安な要素が数多く見受けられます。長引く不況、

イラク戦争に絡んだ戦後の動き、拉致問題をはじめとする対北朝鮮外交、新型肺炎の流行、教育の問題、「ジエンダーフリー」を推進しようとする動きなど、自己をしつかりと保って生活していかなければ、その身を危うくすることにもなりかねない要素が随所にあります。今一度、神道人としてどうあるべきかを共に考えながら活動出来る場を持つことができればと思います。

会員の皆様方には、いろいろとご迷惑をおかけするところになるかと思いますが、県の会長さん、各単位会の会長さんとも連携をとりながら進めていきたいと思えますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

退任挨拶

鳥取県神道青年会

会長 木山 典明



去る、平成十二年に創立三十五年の凡そ軽からぬ歴史を重ねた鳥取県神道青年会の会務を翌十三年七月に霧林前会長からお預かりして早くも二年の歳月が経過致し、この度その任期を終える事となりました。会員はもとより神社庁役職員の皆様・関係各位の皆様方には在任中ひとかたならぬご支援とご教導賜りました事に厚く御礼申し上げます。此の間、本会は組織としては（東・中・西の）協議会であるが「斯界に身を置く青年神職の志はひとつ」との意識を念頭に置き今後世代が尚若返る時期にさしかかる中、組織を支える会員が積極的に参画し一人々の優れた資質や能力を集結して意見を交わし相互研鑽を積み重ねて頂く事を一番に心がけました。幸いにして執行部はもとより会員の皆様にはその意を汲んで頂き、本会をはじめ各単位会の諸会

合や各種研修会はもとより氏青・神青合同研修会などには神青協の中央研修会などに自ら進んで参加をして一層見識を深め、以前にも増して広い視野に立って斯界の将来を見据える視点を培って頂けたと思っております。また明年六月には本県氏子青年会と共に中国地区氏青・神青合同研修会を本会主管で開催する事となり、既に開催に向けて幾度も会合を重ね準備を整えつつありますが、会員の皆様にも「一人々がなすべき事を自らの叡智を絞っておこなう事」によって必ずやこの合同研修会を成功裡に納めて頂き、良質の経験と実績を積み上げて本会の隆盛に寄与されますことを願っております。結びに鳥取県神道青年会の益々のご発展と会員各位のご活躍を祈念申し上げます。ご挨拶と致します。

「古代文化の伝統に学ぶ」

神々の国 出雲道中記

去る五月二十四日・二十五日の両日、鳥根出雲大社社務所の大研修室において、第三十六回中国地区氏子青年・神道青年合同研修会が約百名参加のもと開催された。今回は鳥根県の主管・担当で行われ、出雲では久方ぶりの研修会である。神々の集う国・出雲大社の大神さまの御懷に抱かれつつ、出雲圏である我が鳥取県のルーツ探訪の旅へと向かう。



日御碕神社 正式参拝

鳥取市より車で約三時間三十分、途中山陰道に乗り、道も良く早々に出雲大社へ。「腹が減っては何とやら・・・」先ずは名産出雲そばに舌鼓。さてさて本題へ。大社に着くと早速、正式参拝にて心身を清め直し、いざ立派な大研修会館へ。今回のテーマは、やはり古代出雲の歴史を学び体感することであり、「古代出雲の伝統に学ぶ」と題し、二名の講師をお迎えして、悠久より脈々と続く出雲の息吹を感じてみるものとなった。

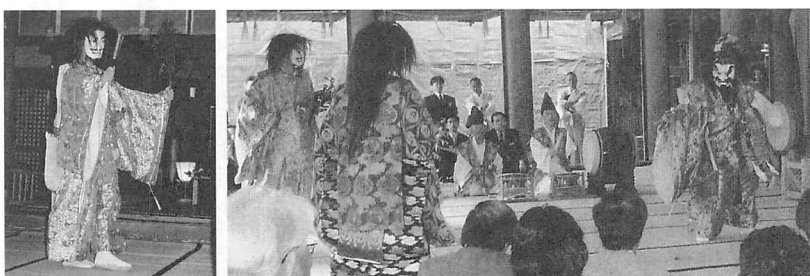
開校式では、神宮遥拝・国歌斉唱・敬神生活の綱領唱和に続き、主催者を代表して中嶋俊史神道青年協議会地区理事が挨拶を述べた。そして来賓を代表して横山直材鳥根県神社庁長、藤山敬廣神道青年全国協議会会長より祝辞を頂戴した。



出雲神楽奉納 乙立神楽保存会「八乙女」

研修に入り、先ず第一講は勝部昭島根県民会館館長より「古代出雲のかがやき」と題し、講師自らが実踏を重ねた鳥根鳥取に無数に広がる貴重な古代遺跡を解説された。中でも先般、考古学・歴史学を揺るがす大発見となった、出雲大社境内の三本ひとからめの巨大柱を用いた本殿跡は、各講習参加者の最も関心の有る所であり、壮大で豊かなロマンを感じるものであった。

次に第二講は、勝部正郊明劔神社宮司より「出雲神楽と祭りの心」と題し、七座（剣舞・散供・御座・清目・勧請・八乙女・手草）をはじめとする出雲地方に伝わる神楽舞の技と意味をご教授頂いた。神職である者にとって、各地方にある神楽舞は伝承文化として最も重きを置くものの一つであり、あらためてそのすばらしさや深い意味を知る機会となった。



出雲神楽奉納 併川神代神楽保存会「茅ノ輪」

翌日は、趣向を変えて会場を日御碕神社に移し、先日の講演にあった出雲神楽（八乙女・茅ノ輪）の奉納を拝見する。幼女の愛くるしいその仕草や、迫力のある能面姿の動き一つ一つに感嘆し圧倒され、まさに神々と一緒になって楽しむ神楽舞であった。

閉講式では、来年の担当県である我等鳥取県に会旗が引渡され、鳥取県を代表して、横山景昭鳥取県神道青年会副会長より多くの方々の参講を願う旨が伝えられた。鳥取県神道青年会としては、是非とも今回同様盛会になるべく、当会員一同挙って参加協力頂きたいと願う次第である。

(東部若輩会 大澤祥之)

東・中・西各単位会の取り組み

東部若輩会

若輩会では、毎年春と秋の年二回、護国神社の例大祭におきまして、衣紋のご奉仕を行っております。本年度も四月二十二日の春季例大祭に、多数の会員の奉仕により無事勤めることができました。

衣紋奉仕を行うにあたり基本的には前日に練習会をもうけ、諸先輩方よりご指導いただきつつ、各々が交代で練習をして、翌日の祭典に備えております。

衣紋をおこなうことが少ない会員には、衣紋を習得するうえで貴重な機会とな

護国神社
障子紙の
張り替え



護国神社のト
ボイスカウト
による清掃奉仕

っておりますことは間違いないありません。

さて近年は例大祭の準備等を行っておられました遺族会の皆様方もご高齢となられ、力仕事等に十分なお勤めが難しくなっておりますとのことを伺いました。

若輩会といたしましては日頃の感謝も込めて、もう少しお役に立てないものかとの思いもあり、昨年からは前日に護国神社へ集合して祭場準備等のお手伝いを行う事といたしました。

しかし、なにぶんにも兼業会員が多いことから、集合時間は遅めとなり、十分な事にならないのが現実でございますが、奉仕意欲は以前より強いものとなっておりますと感じております。

そんな折り作業等を通して、施設等の細かいところへ目をやりますと傷んだ箇所が所々認められ、その中には、比較的簡単に修繕出来そうな箇所もございます。

そこで若輩会の事業といたしまして、昨年の十一月

三十日に修繕作業及び清掃奉仕を計画いたしました。

当日は、会員十三名が参加し、各々の技術を生かし扉の金具等の交換作業、社務所の窓ふき、障子紙の張り替え等の作業を実施することができ、十分ではないものの、まずまずの成果であったと喜んでおります。

また会員の秋本氏の計らいにより、ボイスカウトの皆様にも多数の参加をいただき、境内の清掃奉仕を行っていただきましたことは誠にありがたいことでございました。

意義深い良き事業でありましたので、今後も継続してゆき、さらに充実したものにいたしますことを期待しております。
(横山景昭)

中部青年神職会

どうした中部

中部青年神職会では、「建国祭典奉仕」「国旗掲揚運動日の丸パレード」「鎮霊神社秋季例大祭奉仕」等の事業を例年実施してきており

ます。

今年度は、老人ホームを訪問し長寿祈願祭を実施しました。入所者の方からも大変よろこばれ、やつてよかったと感じました。

しかしながら近年、参加者の減少、固定化の傾向にあります。会費は、三地区のそれぞれの分会などで半ば強制的に集めてはいますが、事業の実施になると休日中心に実施しているにもかかわらず兼職の会員が多く、休日出勤等で参加できないという状況です。

また、事業の刷新も考えたり、少しずつ実施していくとしていますが、会員が集まらないのはなにより

の痛手です。どんな形でもいいので、会員をいかに参加させ、それを継続していくかが今後の課題だと思えます。
(池田豊貞)

西部青年神職会

西部青年神職会では、今迄様々な事業を行ってきました。祭式研修はもちろ

西部支部教化部の御支援により、念願の神楽講習も実現しました。

その様な活動の中にあつて、「事業」の実施目的を、ただ会員の自己研鑽と交流にとどめるのではなく、いかに「社会に貢献していくか」という広い視野を持つべき時期にきているのではないかと、という考えが生まれてきました。そこで、その実践の第一歩として、先ずは『地域清掃作業』を計画しました。

なぜ今「地域清掃作業」なのか?と思われるかもしれませんが、深刻化してゆく「自然破壊」問題、特に身近で多発しているゴミの不法投棄問題が一向に解決していかない現実、他力本願ではなく、自分たちが真剣に取り組んでいくという結論に達したのです。

自然のすべてには神が宿り、その「神を祀る場」の清浄を保つことは、私達神職の重要な努めです。今後、地域清掃という原点に返った活動をとおして、「地域の人々の手本になれる神職」を目指して行こうと考えています。
(門脇泰成)

新入会員紹介

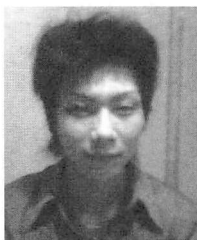
氏名 宇田川 正嗣

(うだがわ まさつぐ)

住所 鳥取市金沢二五五二
奉務神社

末松 神社

所属 若葦会



抱負、私は、二年前から神職として奉仕させていた、だくようになりましたが、まだまだ未熟な所が多い事を実感するばかりです。

これから因幡の相伝樂など覚えることは沢山ありますが、氏子の方々、諸先輩の方々のご指導を仰ぎながら早く一人前の神職としてご奉仕できるように微力ながら努力いたしますのでこれからもご指導宜しくお願いいたします。

鳥取県女子神職会結成二十周年記念奉告祭・式典

緑濃き五月十七日、県女子神職会結成二十周年記念奉告祭並びに式典を開催しました。

皆様の御協力を賜り、盛会に修める事が出来ました。

厚く感謝申し上げます。

今後は、青年会と共に互いに研鑽し、向上していきたいと思ひます。どうぞ宜しくお願いします。

(若葦会会員/女子神職会 山中庸子)



鳥取県女子神職会結成二十周年記念大会

鎮め物の幹旋

鳥取県神道青年会事業として、地鎮祭で使われる鎮物を幹旋しておりますので、ご案内申し上げます。

記

寸法 十五cm×十cm×三cm
価格 五百円

「鎮物」を桐箱に印刷し、奉書で包装、麻紐をかけた完成品です。

お申し込みお問い合わせは、各東・中・西単位会問ひ合わせ先へ。

各単位会問ひ合わせ先

東部

鳥取市東町一丁目一〇三

(長田神社内)

大澤 祥之

電話 〇八五七―三二四六〇

中部

東伯郡羽合町橋津三六九

池田 豊具

電話 〇八五八―三五―三三〇九

西部

境港市新屋町一三一

門脇 泰成

電話 〇八五九―四五―五三八七

重点目標

平成十四年度鳥取県神道青年会事業計画書

- 一、神道青年としての意識高揚と自己研鑽の実践
- 二、単位会会員の相互交流を進める
- 三、神青協活動方針事業計画に基づき活動を進める

事業

- 一、県神青通信第十号の発行(若葦会担当)
- 二、単位会に於ける事業の推進
- 三、中国地区氏青神青合同研修会等への派遣(島根・五月二十四・二十五)
- 四、平成十六年開催予定の第三十七回中国地区氏青神青合同研修会(鳥取県主管)の準備(実行委員会の立ち上げ)

平成13年度決算および14年度予算

〔収入の部〕

(単位:円)

項 目	14年度予算額	13年度決算額
会 費	105,000	105,000
助 成 金	212,000	212,000
雑 収 入	20,000	53,709
前年度繰越	43,207	55,719
繰 入 金	80,000	—
合 計	460,207	426,428

〔支出の部〕

項 目	14年度予算額	13年度決算額
総 会 費	30,000	30,000
役 員 会 費	20,000	9,565
事 業 費	50,000	30,960
対外派遣助成費	140,000	158,000
事 務 費	25,000	9,196
神青協負担金	55,500	55,500
地区負担金	80,000	80,000
特別積立金	10,000	10,000
渉 外 費	30,000	0
予 備 費	19,707	0
合 計	460,207	383,221